

第4期第1回産業振興会議議事要旨

日時：平成27年8月17日 18:00～19:15

会場：帯広市役所 10階第5B会議室

【出席者（敬称略）】

- 委員：兼子賢、河西健一、河野洋一、貴戸武利、佐藤憲、佐藤聡、志子田英明、
田中克宜、外山隆祥、松本健春、真鍋憲太郎
- 相談役：竹川博之 ■オブザーバー：植松秀訓、鈴木義尚、紅葉昭彦
- 帯広市：中尾啓伸、小野真悟、黒田聖、槇勝行、前川光正、毛利英孝、中田英二、
小島正志朗、加藤帝、尾澤琴也、森田昇吾、山内優雅、太田貴章、後藤兆延、
國枝直樹、松本俊光

1. 開会

- 開会にあたり、帯広市商工観光部長より挨拶があった。
- ・本会議のこの先の視点としては、地方創生との関わりがある。地方創生に関する議論は、人口減少など多岐にわたるが、産業振興は柱として議論すべきテーマだと考えている。
- ・もう一つがオール十勝という考え方。十勝のポテンシャルに目を向けていきたい。
- ・この会議は形式にとらわれずに、言いたいことが言い合える活発な会議にしていきたい。

2. 自己紹介

委員、相談役、オブザーバーからそれぞれ自己紹介があった。

3. 協議

- 会長の選任まで、商工観光部長により議事が進められることとなった。
- (1) 正副会長の互選
- 委員の互選により、兼子委員が会長に選出され、賛成多数で承認された。
- 副会長は会長一任とし、次回会議において改めて選出することとした。
- (2) 第4期会議の進め方について
- 産業振興会議設置要綱に基づき、以降の議事は兼子会長により進められた。
- 事務局より、資料2に基づき条例、ビジョン、産業振興会議について説明があった。
- 続いてUIJターン事業について資料3を基に説明があった。
- ・首都圏から十勝に目を向けた時に、企業情報が少ないとの意見があったことから、企業の情報発信を強化するために企業情報誌及びHPを新たに作成する。
- ・情報誌はオールカラー、A4冊子を5500部10月を目処に作成する予定であり、移住希

望者や大学等に配布予定。

- ・市による負担のほか、参加企業から 6 万円の負担をいただいているが、負担金がハードルとなり、60 社予定しているところ現在 30 社程度しか集まっていない。
- ・企業情報誌では、企業情報の他に働く人を紹介するほか、首都圏と十勝で生じる収入の差などの不安を解消するために、実際に収入が落ちても満足いく生活ができる、ということ PR していく。HP では情報誌に載せられない情報も掲載していく。
- ・また、合同企業説明会・移住相談会を 10 月 24 日東京国際フォーラムで実施予定。
- ・他にも、移住希望者を対象に十勝の企業訪問を行う招聘ツアーを 11 月に予定。実際に十勝の企業を目にすることで、十勝への移住を促進する。10 名程度を予定。

■次に、創業起業支援について資料 4 に基づき説明を行った。

- ・創業起業の支援については、ビジョン策定当初より基本方向として盛り込まれている。昨年のビジョン見直しの中でも重点項目として議論された。
- ・人口減少、少子高齢化が進む地域において、地域活力の維持、市場拡大を図るためには、将来性のある新たな産業群の創業起業を促すことが最優先課題であり、引き続き支援を行う必要があるとの議論がされた。
- ・新たな市場、サービスの創造により、既存事業者が刺激され、より高いレベルの商品やサービスの開発に繋がると考えられることから、引き続き起業への支援を行い地域全体の活性化を促していく。
- ・現在帯広市では、地域を挙げて創業者を支援する環境や、チャレンジ人材を十勝に積極的に呼び込み育て上げる取組み、域内外の創業起業希望者相互の触発や一体的支援を行う仕組み、関連する支援制度の充実及び連携可能な環境の整備により、創業起業を促進する仕組みや環境を整備する必要があると考えている。
- ・将来的には、十勝は創業起業がしやすく、チャレンジが人を呼び、人がチャレンジを生むといった好循環を生み出す地域を目指していく。
- ・想定される取組みとしては、事業創発のための総合コーディネート機能の整備、起業家育成プログラムの実施、スタートアップ資金の提供、地域商社機能の整備、試験研究機関の充実が考えられ、庁内横断的に検討しているところ。
- ・検討を進めていく中で、皆様からご意見をお聞きした上で施策に反映させて行きたい。
- ・創業起業の支援は、国の地方創生の新たな仕事作りに関わるものであり、ビジョン見直しの中でも重点的に議論されたところでもあるため、帯広市としても更に注力していく必要があるものと捉えている。皆様のご協力もお願いしたい。

■事務局より、産業振興会議の今後の進め方について資料 2 を基に説明

- ・創業起業の支援も含めて、産業振興のための具体的な施策について意見をもらいながら、施策を検討していきたい。

- ・既にビジョンに掲載されている施策についても適宜進捗を確認していく。
- ・今年度の会議については、今後3回程度を想定している。

■事務局の説明に対し、質疑応答が行われた。

(委員)

- ・企業情報誌に1社6万円払うとのことだが、市はどの程度負担するのか。

(事務局)

- ・600万円程度。企業協賛(6万×60社=360万)あわせて全体で1000万円弱。こちらは企業情報誌のみならずHPの掲載を含めた負担金としていただいている。

(委員)

- ・情報誌の対象は十勝全体か。事業によっては帯広限定だったり、十勝管内全て含めたりと幅がある。十勝全体で実施した方が良いと思うこともあるが、対象者がはっきりするように進めていただけるとわかりやすい。

(事務局)

- ・帯広だけではなく十勝管内全体で考えている。対象者に直接補助するような事業でが帯広市限定としているようなケースが多いと思われる。

(委員)

- ・帯広畜産大学と実施しているフードバレー人材育成事業が、市民のみ参加料の優遇を受けているのは、金銭的な負担ということもあり帯広市民限定なのか。

(事務局)

- ・おそらくそういった理由での整理となっている。産業振興で言えばオール十勝といった取組みを進めて行きたい。

(委員)

- ・補助金の支払い対象など地方自治法で決まっている部分もあると思うが、しっかりと説明をしてほしい。

(委員)

- ・私自身は帯広市の地方創生総合戦略推進会議の委員になっている。推進会議でもこの産業振興会議でも、同じ話をしていくことになると思うので、両会議の整合性を取ってほしい。

- ・この会議は産業振興に関する分野会議なので、推進会議よりも具体的に話していく必要があるのではないか。より具体的なテーマを決めてほしい。
- ・創業起業支援の取り組みについても、実際にどうやるのかという部分が抜けている。筋道を立てて行かないと話し合いにならない。

(事務局)

- ・地方創生の会議は大きな枠組みであり、地域全体の課題に対するもの。
- ・おっしゃる通り、基本的には行政から具体的なものをたたき台として提示した上で、皆様からもご意見をいただき、より付加価値の高い事業にしていきたい。

(委員)

- ・2期3期の会議の中で、本会議のあり方についてかなりの時間をかけて議論した。本会議は中小企業振興基本条例に基づいた会議のため、中小企業をどう発展させるかという部分に主眼を置いて議論をするべきだが、具体的な中小企業振興のための施策が載っていない。
- ・理念ではなく、何をやるべきなのか、どんな施策を提案していくべきなのかを先にはっきりさせた方がいいのではないか。
- ・ビジョンの見直しをしたばかりだが、中小企業振興基本条例も制定から約10年経過することから、条例自体の見直しについて視野に入れていいのではないか。時代とともに条例に不十分な点も出てくると思う。

(委員)

- ・本会議の議論はフードバレーと関連していくと思うが、フードバレー施策を声高に言っているのは帯広だけと感じる。他町村が関われる枠組みで実施できる事業もあるのでは。6次産業、創業となった時に「食」に関するものは必ず出てくる。そこに関連したものを入れた方がいいというイメージを持っている。

(会長)

- ・6次産業化という話が出ている。農林水産省の補助金が活用できる事業もあると思うが、6次産業化は何を目的にどうやっているか、わからない部分も多い。
- ・市役所として6次産業化に関わりを持つ部分は何かあるのか。

(事務局)

- ・国の謳う6次産業化は、一般的に小規模な農家が加工、販売まですることで付加価値を高める取り組みと捉えている。

- ・十勝にそっくり当てはまるかといえば、大規模な農家が加工販売まで行っていくことは、一般的には難しく、餅は餅屋で地元の中小企業に加工を頼むなど関わりを持つ仕組みが、十勝型のフードシステム、6次産業化と捉えている。
- ・6次産業化認定を受けている農家も何件があるが、全体的に割合は低い。

(委員)

- ・6次産業化には、生産者が販売まで行う場合と、販売者が生産も行う場合の2つのパターンがあり、これらは全く別のものと考えている。どちらかといえば後者が成功している。
- ・帯広信用金庫芽室支店で勤めていた時に農家を見て回ったが、畑作以外に何か事業に取り組んでいる農家が圧倒的に多かった。しかし、十勝の農家の特徴だと思うが、現況経済的に困っていないため、リスクを負わないで事業に手をつける方が多い。中にはリスクを負いながら事業展開している方もいるが、非常に少ない。
- ・加工により付加価値をつけることに対し、若い農家の方は理解を持っているが、親の代から農家を続けている方から聞こえてくるのは、作物を直接台所に届けたいという思いが強く、典型的なものが愛菜屋となっている。そういった部分が6次化への壁になっていると感じる。

(委員)

- ・市役所の中で様々な会議があると思うが、フードバレーに特化した会議はあるのか。

(事務局)

- ・フードバレーとかち推進協議会において、行政、農協含めてフードバレーとかち推進の取り組みを検討している。
- ・オール十勝という考えでは、定住自立圏の枠組みにおいてもフードバレーを含めたオール十勝の取組みを検討している。

(委員)

- ・産業振興に関する議論はあるのか。

(事務局)

- ・フードバレーとかち推進協議会はフードバレーに特化した議論となっている。定住自立圏は全体に関する議論で、産業振興に関するものも含まれており、行政間が共同で取り組む事柄についても議論されている。

(事務局)

- ・委員からも話があったが、会議のあり方についての議論に時間を割くことは本意ではな

いというのが共通の認識だと思う。ビジョン見直しの際にも計画だけ作って終わるべきではないとの意見もいただいている。

- ・具体的に事業が進んでいるものもあれば、創業起業支援のように検討段階のものもある。また、市が行うもの、民間主体として具体化していくものなどある。市としても検討を進めたい。
- ・本会議自体が、中小企業の皆様が中心となってスタートしたという経緯もあるため、現状議論テーマは市から提案しているが、それだけではなく委員の皆さんからも適宜ご提案いただきながら協議の場を設けていきたい。

(会長)

- ・より具体的な議論をつみかさねていきたいという方向で意見は一致していると思う。UIJターンに関する事業は具体的になっている。
- ・創業支援や中小企業の振興については、より具体的な議論を進めていきたいと思っているので、事務局からの提案とあわせて議論していきたい。

(委員)

- ・委員の就任期間が2年間といっても既に8月になっている。きちんと議論をして行きたいので、早い時期に会議をスタートしたい。緊張感を持って準備をお願いしたい。

4. その他

(事務局)

- ・本会議は原則公開しているが、協議案件については非公開とすることもありうるため、ご理解をお願いしたい。

5. 閉会

以上